

第1回加西市未来の学校構想検討委員会

日時：令和3年10月11日（月）
14時08分～16時06分
場所：加西市市民会館3F小ホール

1. 開会

○教育長

日本全国で急速に進む少子化、Society5.0を前に、加西市教育委員会は子どもたちの未来を見据えた教育のあり方、学校のあり方を真剣に討議してきた。

教育、学校の在るべき姿を考えるとということは、20年、30年後の「未来の加西市の大人たち」をどう育てるのかということに直結する大変重要な課題である。

また、学校のあり方を決めるとということは、未来の加西市のあり方に対して、重い責任を担うことにもなる。これから約1年、委員には忌憚のない意見と提案を賜り、加西市ならではの未来の学校構想を描きたい。

2. あいさつ

○市長

学校の配置については、設置者である私が、このあり方について最終責任を負う。

私は平成23年に市長に就任した。ちょうど前市長が、学校のあり方について諮問し、このような諮問会議を開いていた時期で、私とその答申を受けた。

23年の選挙はこの問題をめぐって対立した。前市長は5校にする案で、私は11校存続を訴え当選した。ただ11校を残すだけではなく、地域づくり、人を増やす努力をしっかりと行う必要がある。しかし、残念ながら子どもの数は増えていない。去年は出生数190人という状況だった。

7年後にはその人数が小学生になる。文科省は適正規模を明解に打ち出しているが、それを全く無視して、教育活動はあり得ないと思う。しかし、適正規模ばかりを追求する必要はないと考える。この地域の子どもが義務教育の期間をどう過ごすべきか、当然教育の中身も大事だ。適正規模をしっかりと見つめながら、そういう議論をしなくてはならない。

会議名は、「学校のあり方」から進んで、「未来の学校構想」になった。単なるあり方の議論ではなくて、構想化することが大切。どんな将来の学校をめざして、子どもの自己実現を図るか、しっかり見据えて検討していくという意味で、この1年間、しっかり構想をつくることを主体に置いた。そういう意味で、私は諮問委員会が出した意見については、そのまま進めたいと思う。ただ、そのままやるにしても当然いろんな意見があり、今現在もある。実現していくのは簡単なことではないが、責任を持って仕上げていきたい。

諮問委員会の中で、途中の時期に教育委員と腹を割った話をし、素案の検討をしたいと考え

ている。そして、諮問委員には将来の加西市の小中学校の配置数も含めた素案を議論していただきたいと思う。

学校のあり方については、保護者、現場の先生、地域から、いろんな意見があり、反対意見もあるはず。案なしに議論しても絶対にまとまらない。また、案なしの議論をする時期ではないと思う。23年の検討も踏まえて、しっかり素案をもとに議論いただきたい。諮問委員それぞれ忙しい方ばかりだが、1年間よろしく願いたい。

3. 委員・職員紹介

4. 会長・副会長の互選

○会長

学校改革を成功させるためには、改革の理念をしっかりと考えることと、その理念を具体化するための手立てを綿密に検討することが必要だと思う。子どもたちがどのような人間に育てほしいのか、そのために学校はどうあるべきかといった理念と、その理念を実現するためのソフト面、ハード面での様々な具体的手立て。その両面があって学校改革がうまくいく。今回、様々なお立場の委員の方々に参加していただいているので、知恵を出し合いながら1年間進めていけるよう、よろしく願いたい。

5. 諮問

○市長

加西市未来の学校構想について、諮問。加西市立学校の望ましい教育環境を整備するため、下記事項について理由を付して諮問する。

1. 加西の教育のありたい姿について
2. 小中学校の再編についての基本的な考え方について
3. 地域との連携による学校づくりについて
4. その他必要と認められる事項について

(市長 退席)

6. 協議事項 加西市の学校教育における現状と課題について

○会長

協議事項の加西市の学校教育における現状と課題についての資料は諮問に合わせて3項目。この3点について事務局より説明をお願いする。

- | | |
|-------------|-------|
| ○学校教育課長 | 項目1説明 |
| ○教育総務課長 | 項目2説明 |
| ○総合教育センター所長 | 項目3説明 |

○委員

加西市へ嫁いできて、子どもの人数が少ないのにびっくりした。逆に、我が子を育てるにはのんびりしていて、すごくいいところだと感じている。子どもが中学校に入り、様子を見てみると二極化されている。できる子はできる、できない子はできないという形で分かれている。人数が少ない中で落ちこぼれができてしまうのは残念だ。

加西独自のいい教育をどのように実現していくのか。例えば教員の配置は国や県の基準に基づくしかない。私たち親がこうしたいと思っても、国の基準によって変えられないこともあるといいながら、せっかく話し合っても現実的には無理と言われる不安がある。日本の教育要綱や配置基準というものを無視してでも、何か加西のオリジナルなものがないか。それを聞きたい。また、その上で話し合いができれば希望も持てる。

国とのしがらみだけが優先されて、結局話し合っても「無理でした」となってしまうのか、それとも国のしがらみはあるけれども、「加西市はこのように変えていきます」、「予算つけていきます」という可能性があるのか。それを確認したい。

○学校教育課長

教員の配置には国の基準があり、兵庫県の教育委員会も独自に学級編制基準を設けている。特に特別支援教育について兵庫県は手厚い。ただ、加西市の独自の学級編制というのはなかなか難しい。法律上全くできないわけではなく、市独自に予算をつけて、教員を配置することはできる。例えば明石市では低学年で学級数を増やしている。可能性ゼロではない。今後、複式化する学級に対して、市独自に人を配置する検討の余地がある。先行的にやっている市町の取組も参考にしながら、加西市でできるか、できないか議論していきたい。

教師の働き方も報道等で話題になっている。精神的に追い込まれる教員も全国的に増えている。加西市も早くから、例えば校務のIT化を進めながら、成績一つでもコンピュータを使って採点するとか、できるだけ省力化を図っている。

単に先生の働く時間を減らすのではなく、それによって子どもと向き合う時間をつくりたい。その姿勢で進めている。事務局と校長会はもちろんのこと、現場の声を聴きながら、子どもと向き合う時間を確保していきたい。頂いた意見をぜひ事務局、校長会、現場の先生と共に考えていきたいと思う。

○委員

資料に平成 23 年に児童生徒数が段階的な目安に達した地区から再編に向けての協議をするところがある。市長当選後、統廃合の議論については保留とあるが、これからの議論は保留を解くということか。

○教育総務課長

保留以外の方法も含めて議論になるということである。これまでの経緯に縛られることな

く議論を進めていただきたい。

○委員

統廃合の議論は保留しないと理解していいか。

○教育総務課長

全く何もない状態で議論はできないので、事務局から再編などについての素案を提示したい。今日は用意していないが、次回以降に用意したい。

○委員

学校運営協議会の設立について詳しく説明を求めたい。

○総合教育センター所長

学校運営協議会は、地域と一体となって子どもたちを育むための協議の場だ。学校と保護者、地域住民が力を合わせて学校運営に取り組み、地域みんなで子どもを育てることを目的とする。現在も各学校で学校評議員が入って、PTA、評議員と一緒に学校運営を考えている。加西市は以前からそれを続けている。ほぼ学校運営協議会に近いものが行われている。今までと同じような活動の延長でできると考えている。

○委員

私も学校評議員をしたことがあるが、ちょっと寄って1時間ほどで終わる。本当に中身の少ないような会議だと思う。実質的な本当の教育の議論が地域でできる場であるべきだ。ただ単につくるだけにならないようお願いしたい。

○副会長

私の浦幌町での関わりを紹介させていただく。まちづくりと人づくりの接点に当たるところを担っている。大事にしていることは次世代に社会をつなぐということで、大きく2つ考えている。1つは社会とか地域というものを、次世代が引き受けて良かったと思えるものにしていくということ。先ほども持続可能な社会の、未来の創り手に子どもたちはなるという話があった。その子どもたちに負の状態では社会を引き渡すのではなく、よりよい地域とか社会を引き渡せるようにするのが、私たちがいる団体で大事にしているところ。もう一つは、その未来を担う子どもたちが、担えるだけの力をつけていくことのサポートをするということ。その2本の柱を大事にしている。

ありがたい教育の姿とか、目指す子どもたちの姿とは、そこに関わる大人の姿や大人の関わり方とは切っても切れないものである。子どもたちの姿とか教育の姿というのを、それだけを切り取って考えるというよりは、私たち大人がどう関わっていくとか、どんなまちをつくっていくのかという議論と、切り離さずにできるということが大事。保護者や教職員に限らず、関

わる大人全てだと思う。再編については、どういう教育を目指していくかに付随した議論だと思う。物理的な条件、施設のあり方とか、教職員の配置は、国とか県からの支援が得られるところなので、それをどう活用していくかということと合わせて戦略的に考える必要がある。

○委員

2点、質問がある。まず、加西 STEAM 教育。エリートをつくる教育という感じがして、少し疑問を感じる。「新しい価値を創造し、未来に挑戦する加西っ子」は、いわゆる天才待望論みたいなもので、個人の能力を伸ばし、学校や社会がそれを応援することによって、結果的に新しいビジネスやサービスをつくり、社会を引っ張っていく。その方向がかなり強いと思う。

「加西っ子の新しい価値を創造する」というが、なかなかそうできない子もいる。そういう子については誰も考えてくれない。そんな極端な形の社会になっていく気がする。エリート的なものにつながらなくても、自分の人生を意味のあるものにして生きていける力を、地元の教育がつくっていく。そういうものを増やす必要があると思う。その点をどう考えているのかということが1点。

もう1点は、次の世代に何を残していけるのかということ。私たち世代が生まれて育ってきた社会は、歴史的に見ても日本経済が極めて豊かな時代だった。そういう時代が終わりかけて、少子化や出生数の減少が深刻化するなどして、学校の再検討にもなっている。そんなときに、豊かな時代を過ごしてきた我々は、次の世代に何を残していけるのか。それは大きなテーマだと思う。それは、次の世代に対する私たちの責任とか義務だと思う。それについてもどんな考えを持っているのか聞かせてほしい。

○会長

2点。必ずしもエリート的なことを言っているわけではないが、もう少しその説明を加えられればと思う。そして、次世代に何を残すか。

○学校教育課長

加西の子どもに限ったことではないが、「18 歳意識調査」というのがある。世界9か国の17歳から19歳の男女1,000名を対象にした調査である。その中で日本の若者は「自分を大人だと思う」という回答が低く、3割弱だ。先進国では9割以上である。中国や欧米では9割、8割が「自分はもう大人だ」という認識を持つ。「自分は責任ある社会の一員だと思う」とか、「自分で国や社会を変えられると思う」というような意識調査の数値も日本はとても低い。

今、加西市は何をしているかというと、STEAM 教育で1人1人に問いを立て、課題を持つことに取り組んでいる。例えば、ある学校で食育を通して農業の課題を STEAM 教育の手法で行っていかようとしている。その学校では、今の農業が当たり前としているものに対して、子ども自らが問いを立てる。今のままの方法でよいのか？と。自分のこととして考え、大人にな

った自分をイメージして、20年先の加西ではこんなふうに農業をしてみてもどうかと考えるような、身近な学習の場から課題を持てる子どもをつくっていききたい。

私たちがそうだが、どちらかという受け身の思考になっている。例えば自分が幸せでないのは、周りの社会が悪いからとか。自分ができないのはお父さん、お母さんのせいだとかと言うのも受け身の発想だ。それをあえて自分たちからどうにかできないか、自分ならどう解決できるのか、学習を通してそのような問題意識を持たせたい。これが今、我々が考えているSTEAM教育のあり方の一つ。そういったたくましさのある子どもに育てていきたい。

次の世代に何を残せるかについては、STEAM教育を含めて我々がしたいのは人づくりだ。そういった子どもたちをつくっていく、あるいは加西を担っていく大人をつくる。その人づくりをするための仕組み、社会や我々大人たちの意識改革、そういったことをしていくことが今、次の世代に残せること。

ハード面とかではないが、先ほどの学校運営協議会のこともそうだが、社会の意識を変え、大人みんなで子どもを育てていく。当事者である教員や保護者だけではなく、地域でそういったことを一緒に関わっていく。そのように考えている。

○委員

この委員会は学校を再編することを前提として集まっている会ではないかと思う。それなら、なくなる学校もある。そこで、人づくりをできるのか？ 教育委員会は文化的な視点、芸術の視点でも、人をつくるということ、どのように考えているのか。

小学校は150年くらいの歴史があり、地域の文化の拠点になってきた。学校には図書室も美術室も音楽室もある。もし学校がなくなっても、そこで学ぶことの喜びを地域の人々が感じられるような場にできないものか。文化や芸術に触れることは非常に大事なことで、そういった文化的な面でどのように人づくりをするのか教えてほしい。

○教育長

委員の発言の中でSTEAM教育が、エリートをつくるための教育になりかねないというニュアンスがあったが、私たちはエリート教育を打破するためにSTEAMをやりたいと逆に考えている。私は1年前に東京から帰ってきて、加西の教育の一番の問題は、「みんな一緒に一斉に同じように」という姿勢が大変強いところだと感じている。それに馴染めないために落ちこぼれ感を持つ子どももできるだろう。もっと1人1人の考え方や感性を大切にしたい。

1年生でぐっと身長が伸びる子もいれば、5年生になってから伸びる子もいる。身長は見るとすぐわかるが、頭の中は外からはわからない。みんな一緒に一斉にできないと駄目というところが強すぎる。どうすれば、1人1人の能力を大事にして伸ばしてあげられるのか。それぞれの子がそれぞれで自分の世界を作れるような、そういう力をどうすれば醸成できるのか。そう考えてSTEAM教育を標榜した。ただ、パソコンが使えて、プログラムなんてどんどんできちゃうだけみたいな子どもを育成するためではない。そうすると本末転倒だ。よい指摘をい

ただいた。再度戒めて、きちんとした発信をしていかないといけないと誤解を生むと感じた。

もう一つ気になったのは、この会は統廃合ありきなのかと言われた委員の発言だ。おそらくそう思われているかもしれないが、決してそうではない。もちろん委員の総意や、住民、保護者の意見がそうであれば、それはそのようにすればいいと思うが、私は一つ一つの地域の文化や伝統、教育への情熱というものをきちんと守りたい。ただし、学校の少人数化、それによる不安や弊害をどうやって解決し、乗り越えていくのかという視点は欲しい。何の手だてもなくそのままに残すという考え方では乗り切っていけない。教育委員会の中でもいろんな意見がある。一つの方向性だけで突っ走っているわけではない。いろいろ話し合いをしており、最初から統廃合ありきという前提で進めているわけではないので、委員からどんどん意見を出してほしい。地元の地域なり団体に帰られてから、もっと広く意見を聞いていただき、それを持ち寄っていただくことも大事だと思う。

日本が大変豊かだった時代を我々は享受して、それを次世代に「何を残し、どう引き継いでいくのか」と問うとき、学校という自分たちの学びのコア、本当に記憶の核。それを守れなくて何が文化だと私は思う。でも、それを守るためには大変難しいことがたくさんある。意見を出しあい、それを乗り越えられたら、素晴らしいことだと今思っている。

○会長

先ほどの委員の質問とも関わって、核心に迫るところである。統廃合ありきではないという、そのスタンスで議論を進めていけたらと思い同った。

○委員

加西市の子どもの課題として3点が挙がっている。それを解決するには、周囲の評価を気にしないで、たくましさがあって、自発性のある子になればいいと言っている。でも、この3つがそろっている子がいるとすれば、私は嫌だと思う。

副会長からの話があったように、大人の関わりというところが、子どもを育てる、育むという意味で、すごい大きな影響がある。申し訳ないが、学校の先生が持っている人間に対する価値観、これがすごく固定的だと思う。逆に言うと、周囲の評価を気にしている子がいれば、私はそれでいいと思う。「あなたは周囲のことを気にして、こういう行動をしているんだね」という意味で、私は「それは素晴らしいことや」とほめてあげればいいと思う。

私は、あまり評価を気にしないから、こういうふうに評価を気にしている人を素晴らしいと思う。調整力があるということなので、「たくましさに欠ける」という「欠ける」と感じているのは大人であって、その子にとっての「たくましさ」というのは、「ある」と思う。言いたいのは、こういう固定的な大人の価値観が、子どもの本当の可能性を摘んでいるような気がする。

STEAM教育については、いわゆる理系的、理論的なものを考えながら、世の中の課題を解

決していく能力を身につける。それをやることはすばらしいことだと思う。

一つの価値観で子どもを見るということが一番危ない。委員からの指摘があったようにみんながみんな、先生が OK というラインのところには乗らない。乗らなかった子はどうするのかという話。私はその幅広い価値観を特に大人、教師、保護者、地域の皆さんが持つことが、子どもが自分の価値観を認めていく上で、全てのエネルギーのもとになると思う。これが一つ。

2つ目は学校再編の「0歳から15歳までの一貫した教育」のところ。小1プロブレム、中1ギャップの解消は本当に大きな問題。私はここの中に「親支援」という概念を入れていただきたいと思っている。子どもたちを取り巻く環境は多様になっていて、貧困の問題、シングルマザーの問題、最近はシングルファザーも多いが、子どもにだけ目を向けるのではなくて、その奥で子どもを取り巻いている一番大きな家庭というところの、親支援も入れることが、一番解決が早いのではと思っている。

最後に質問。自分が教師のとき、学校評議員会というのは、何かちょっと問題が起きたときに集まっていたら、助けられてきた。学校評議員会が機能しているということは学校にとっては大変ありがたいとは思いますが、学校運営協議会というのは任命権のところまで地域がものを言うことができるものである。そこまで踏み込まれるのかどうか聞きたい。

○総合教育センター所長

その部分に関しては加西市の規則として考えていない。

○委員

文科省の基準は3項目で入っている。コミュニティ・スクールの話だ。任命や運営に関してというのが。だから他の自治体も踏み込まない。平たく言うと、地域から「A先生困るやん、あんなん辞めさせてくれ」って言われたら大変なことになる。

○学校教育課係長

コミュニティ・スクールの規則では、校長の人事具申に関して意見を述べるができる。学校運営協議会が意見を述べることを認める、認めないということは、市のコミュニティ・スクールの規則上でその条項を入れる、入れないを決めることができる。入れたとしても校長の具申権に対する意見なので、それをどうするかは校長の裁量に任されている。

○委員

校長会は OK するだろうか。任命権、人事まで。実は全国でも、なかなか大変なところがある。加西市は加西市の方向を探るのなら、それでいいと思う。

7. 連絡事項 今後の委員会の進め方について

○会長

他に意見がなければ議事を進めたい。今後の委員会の進め方について事務局より説明をお願いする。

○教育総務課長

本日より1年間の任期になる。引き続き委員をお願いしたいところではあるが、途中で役職を交代される場合もある。その場合は後任の方に引き継がれることも想定している。

次回以降、その諮問内容に沿って審議いただく。特に再編についての基本的な考え方については、第2回目に事務局から素案を提示したいと考えている。2月、4月あたりに、市民を対象としたアンケートの検討も予定している。検討委員会の会議録は名前を伏せるという条件で了解いただければ、会議録を公開することにしたい。

○会長

会議録を委員匿名の形で公開するという点はよろしいか。広く市民の方にも疑問や関心を持ってもらって、直接、間接といろんな形で参加していただければと思う。匿名で公開ということでもよろしいか。(異議なし)

会議録は逐語録ではなく、要点をまとめる形になるか。

○教育総務課長

できるだけ簡潔にまとめたい。

○会長

わかりやすい形で、趣旨をしっかりと伝える形で会議資料を作っていただきたい。

○委員

参考として提出され、説明された文章はすごく抽象的で、理想はわかるが、一体どうやったらその解決ができるかが、僕の中ではわからない。いい言葉を並べてあるだけと思う。子どもが減ってきていることはよくわかる。加西市の人口も減っている。だから5年後、10年後、どんな人口動態になっているのかを並行して見ないと、なかなかわかりにくい。

あとは、このコロナ禍になって社会が激変して、どんな社会が次に待っているのかわからない。きっと想像できる方もいると思う。YouTuberとか10年前では想像がつかなかった仕事も誕生している。イメージしにくいと思うが、こんな社会が来るんじゃないかというのを何か示せないか。それが見えないと、教育にしても私たちのこの社会にしても適用していく理念というのはつukれないと思う。

5年後、10年後どんな仕事が生かされるのか。もしかしたらロボットが農業を一生懸命やってくれて、若者たちがそれで農業を担っている社会になっているかもしれない。何かそういうところが絵に描けないと、会議が実るような形にならないのではと思うので、ぜひとも教えていただきたい。

今日の内容だけでは先が見えないので、先が見えるような社会を伝えしていただき、決めたいほうがいいと思うので、また資料作成をお願いしたい。

○教育総務課長

5年後、10年後の人口動態については用意したい。将来の社会像については、テーマを絞ってもらえればありがたい。私も先のことはわからないが、一緒に考えていけたらと思う。

○委員

この場で共有できる言葉の定義づけをした方がいい。いろんなすばらしい言葉が書いてあるが、結局何を言っているか具体的にはわからない。私も同じ気持ち。例えばこのメンバーで共有できる言葉、議論するときには言葉の定義づけが必要。これはこういうことを目指しているということを、第2回目以降、主なキーワードを皆で共有できる、そういうことをやるべき。それをしないと同床異夢みたいな、違う夢を見ているようなことにもなりかねない。

未来はどうなるか、これはもう過去から考えるしかない。学校制度なら100年、150年でできたものだから、それが少しずつ変わっていく。慣習とかと同じように。学校が地域に果たしてきた役割とか、人間形成に役立ってきた役割とかを考え、過去に目を向けることは非常に大事なこと。それによって初めて自分たちの将来とか未来が少しは見えるかもしれない。

○会長

言葉の定義づけについて具体的には。

○委員

例えば、文科省の言葉かもしれないが、「社会に開かれた教育課程」というのは具体的にはどういうことなのかとか。「自然と共生している」とはどういうことを指すのかとか。ここには本当にいい言葉がたくさん出てくるが、具体的にイメージできないものもある。「これはこういうものを目指している」とか、「こういうことを言っている」ということをこの場で共通理解できれば、実りのあるものにできる。

○会長

非常に大事な意見。今回の議論に関わって重要な言葉については、一定の定義づけをしていけたらと思う。

○委員

将来に向けた資料の依頼があったが、今回の資料は未来に向けての数字だけであるが、例えば平成20年に統廃合案が出されて、それ以降の児童生徒の変化がどうなったかということなども可能であれば出していただきたい。

23年に出されて今保留されている基準がどういうものなのかというのを、できれば示して

ほしい。もう1点、議事録はオープンだが、会議資料はオープンになるのか。

○教育総務課長

会議資料はホームページで会議録とともにオープンにしたい。平成20年からの人口動態は承知した。前回の答申のガイドラインも資料を用意したい。

○会長

次回の資料の準備をお願いする。

○教育長

リモート参加の副会長からも一言いただきたい。

○会長

お願いする。

○副会長

この統廃合問題を含め、難しい課題も含まれている。これからの教育をどうしていくか、地域の将来をどうつくっていくのかというのは、非常に大事で可能性のある議論だと思う。加西市ならではのものを打ち出すことに私も貢献したい。この機を捉えて可能性を拓いていくことができればいいと思う。次回はそちらにうかがって、参加する予定だ。改めて皆さんとお話しできればと思う。よろしくお願いする。

○会長

本日の委員会の日程はここまで。どうもありがとうございました。

8. その他

(意見なし)

9. 閉会

○教育部長 あいさつ